

Hiroshima City University

Graduate School of International Studies

広島市立大学大学院案内 2007

国際学研究科



広島市立大学は、広島市の都市像である「国際平和文化都市」にふさわしい大学づくりを目指して、1994年（平成6年）4月に国際学部、情報科学部、芸術学部の3学部構成で開学しました。この3学部における学術研究の高度化を図るとともに、国際的かつ先端的な専門教育を行うために、4年後の1998年（平成10年）にはそれぞれの学部に基づき国際学、情報科学、芸術学の3研究科からなる博士前期課程（修士課程）を、さらに2000年（平成12年）には博士後期課程を設置しました。現在、社会人や留学生を含む多様な学生が学ぶ大学院として成長し、2006年（平成18年）3月までに840名の博士前期課程修了者、47名の博士後期課程修了者を輩出しています。

本学大学院における教育研究の目的は、最先端の学問領域を究め、知性と感性と創造性を研ぎ、多様化する社会のさまざまな分野で活躍できる人材を育成することです。そのために、3研究科の専門分野における高度な研究を通じた教育を実現する授業科目群と、学際的な知識を身につけ調和のとれた人間形成を図る授業科目群「21世紀の人間と社会」を開設していることが特色です。

このように本学大学院は、あらゆる活動が高度な知識や情報を直接的な基盤とする知識基盤社会において、指導的役割を果たしうる能力と資質を備えた教育者、研究者、そして高度専門職業人の育成を目指しています。

広島市立大学長
浅田 尚紀

Graduate School of International Studies

広島市立大学大学院案内 2007

国際学研究科

Contents

大学院の目的と特色	2
国際学研究科	4
博士前期課程	
全研究科共通科目群 21世紀の人間と社会	6
国際学専攻 国際社会研究科目群	8
国際学専攻 地域研究科目群	10
博士後期課程	
国際学専攻 国際社会研究科目分野	12
国際学専攻 地域研究科目分野	13

大学院の目的と特色

Graduate School of Hiroshima City University

科学と芸術を軸に世界平和と地域に貢献する国際的な大学

大学院の目的

1. 高度な学術知識を修得し、
高度な能力を身に付けた
研究者及び専門職業人の育成。
2. 21世紀の地球社会の多種多様な課題を
発見し、解明し、解決するとともに、
世界平和の構築に貢献する人材の育成。
3. 最先端の学問領域を究め
社会の多様性と変化に即応しうる
知性と感性と創造性をあわせもつ人材の育成。
4. 地域と連携し社会に開かれた教育・研究の推進によって、
多様化する地域社会の充実と発展に貢献する人材の育成。
5. 高度な学際的関心と旺盛な知的好奇心を持ち、
専門的学術研究を志向する学術的な社会人のための
生涯学習の支援。

教育研究の特色

1. 高度な専門的教育・研究
 - 高度に専門化し、先端化している最新の学問領域を教授します。
 - 専門領域諸分野についての最新の研究成果と研究手法を取り入れた教育・研究を目指します。
 - 学界の最新の学術情報に接するとともに、学問の深奥に触れ、
活発な問題意識を育む教育・研究を目指します。
2. 高度な専門教育に相応した学際的教育・研究
 - 高度な専門性を維持しながら、既存の縦割りの専門分野や研究領域を超えた、広範な横断的視野からの学際的教育・研究を行います。
 - 物事を広範な視野から考察し、総合的視点からの
判断力と理解力を養う教育・研究を目指します。
 - 論理的な思考力を養い、幅広い学識と豊かな人間性を育む
教育・研究を行います。
3. 創造性と独創性を涵養する教育・研究
 - 研究意欲を高め、高度な専門的学術知識の修得を目指すとともに、
創造性と独創性を涵養する教育・研究手法を積極的に進めます。
 - クリエイティビティを発揮し得る教育・研究環境の中で、
知的好奇心と感性と創造性を高め、独創的、創造的な成果が
期待できる教育・研究を実施します。

広島市立大学の構成

学部	国際学部	国際学科
	情報科学部	情報工学科
		知能工学科
		システム工学科
芸術学部	美術学科	
		デザイン工芸学科

大学院	国際学研究科	博士前期課程	国際学専攻
		博士後期課程	国際学専攻
	情報科学研究科	博士前期課程	情報工学専攻
			知能工学専攻
			システム工学専攻
			創造科学専攻
		博士後期課程	情報科学専攻
	芸術学研究科	博士前期課程	絵画専攻
			彫刻専攻
			造形計画専攻
		博士後期課程	総合造形芸術専攻

附置機関 広島平和研究所

附属施設
 附属図書館
 語学センター
 情報処理センター
 芸術資料館

国際学研究科

Graduate School of International Studies

国際性、学際性、実際性を重視した教育・研究を実施

博士前期課程

国際化の潮流が加速し、またこの潮流に対応すべき社会的要請が一段と高まる中、国際研究の高度化と真の国際人の養成が国内外から強く求められています。本研究科は、国際研究の先導的な役割を担うとともに、国際社会の問題点や課題を自ら発見し、解決できる実践的な真の国際人の養成と、高度で先端的な国際研究に携わることのできる教育・研究者の育成を目指しています。

教育研究の特色

1. 今日の国際社会の多様化したニーズに応え、グローバルな課題に対応するために、より柔軟で学際的な教育・研究に適した授業科目の編成を目指します。
2. 国際研究に必須な国際性、学際性、実際性を重視した教育・研究を行います。
本研究科が授与する修士学位の種類は、修士論文の内容により、「修士（国際学）」又は「修士（学術）」のいずれかになります。
3. 授業科目の履修期間は、社会人や外国からの帰国者及び留学生の受け入れに対する便宜等を考慮して、半年単位のセメスター制を導入しています。
4. 昼夜開講制を実施しますので、社会人が在職のまま本大学院へ進学することも可能です。
また、学生募集においては社会人選抜*も行い、生涯学習を支援します。

修業年限

博士前期課程の修業年限は2年間とします。
ただし、優れた研究業績をあげた者については、1年以上の在学をもって修了を認めることがあります。

教育研究内容

本研究科は国際学専攻の1専攻に集約していますが、研究科開設科目は、多彩で学際的な教育・研究内容の授業科目を選定して、以下のとおり、「国際社会研究科目群」と「地域研究科目群」の2科目群及び総合セミナーで構成し、さらに二つの科目群は、共に数種の研究群をもって構成されています。

(1) 国際社会研究科目群

国際社会研究科目群は、国際社会を構成し、動かしている、文化、政治、法律、経済、経営、言語の諸側面の様々な機能と役割の分析・研究を通じて、国際社会が直面している問題の分析と解決に資するための教育・研究を行い、学際的な知見の蓄積と国際社会における実践力の修得を目指します。研究群としては、「政治・社会研究」、「経済政策研究」、「経営政策研究」、「社会文化研究」、「言語文化研究」の5研究で構成。国際社会の横断的な機能研究に根ざしている点が大きな特色です。

(2) 地域研究科目群

地域研究科目群では、世界の諸地域をアジア、

アフリカ・中東、ヨーロッパ、アメリカ、日本の5地域に大別して、それぞれの地域について様々な学問分野から多面的、多角的に教育・研究を行い、諸地域についての正確な情報や深い知識の修得を目指します。

また、世界の各地域についての情報や民族文化の知識を分析・整理し、各地域の多様な現状と相違点を総合的に解明することを目標とした教育・研究を行います。

さらに、グローバルな視野で日本と世界各地域を多面的、多角的に比較することによって、一地域に偏ることなく、より広い国際的視野、国際的感覚、国際的知識が養われるよう教育・研究を行います。

(3) 総合セミナー

上記の二つの研究科目群のほかに、複数の教員が複数の専門分野にまたがる総合演習形式で担当する二つの総合セミナー、「総合国際社会研究セミナーA・B」と「総合地域研究セミナーA・B」を開設。

特に、「総合国際社会研究セミナーB」ではプレゼンテーション技法、「総合地域研究セミナーB」では社会調査法などの実技の修得を目指します。

取得可能な教員免許

- ・中学校教諭専修免許状（英語）
- ・高等学校教諭専修免許状（英語）

*社会人選抜については、募集要項および本学ホームページをご参照下さい。

国際学研究科の構成

専攻	募集定員	詳細
博士前期課程	国際学研究科 15人 (社会人選抜*を含む)	国際社会研究科目群 地域研究科目群 P.8
専攻	募集定員	詳細
博士後期課程	国際学研究科 7人	国際社会研究分野 地域研究分野 P.12



博士後期課程

今日、人類の歴史は物質的繁栄の極に達した感がありますが、一方、今日ほど地球の荒廃と人類存亡の危機を人類共通の問題として真剣に考えねばならない時期はありません。そこで、広範な国際的視野と判断力、また柔軟な学際的学術知識と見識をもってこのようなグローバルな難問の解明と解決に挑み、危機に直面した地球社会の救済と安寧に貢献する真の国際人の育成が今や急務となりました。

本研究科は、新しい時代のこのような逼迫した要請に応じて、国際社会の文化、政治、経済、教育、科学、産業等、さまざまな分野において指導的役割を果たしうる高度な専門職業人、及び高度で先端的な学際的研究に携わる能力を備えた教育・研究者の育成を目指します。

教育研究の特色

1. 国際性・学際性の観点からの教育研究

国際性・学際性という観点から、博士後期課程の研究科目は国境や国家という単位を超えてグローバルな視点から人類益や地球益に立脚した地球規模のトランスナショナルな発想を基本とします。また、文化、政治、経済や人文、社会、自然といった既存の学問分野や研究領域の枠にとらわれることなく、高度な専門性を維持しながら、より広範な学問的視野から教育研究が行われるよう配慮します。

2. 社会人のための昼夜開講制の導入

高度な学際的関心と旺盛な知的好奇心を持

ち、専門的学術研究を目指そうとする学術的な社会人のために、より高度で専門的な教育研究を実現します。そのために、博士後期課程では昼夜開講制を導入して昼夜を問わず教育研究を可能とし、社会人が在職のまま大学院へ進学し得るよう積極的に配慮します。

3. 留学生の積極的な受け入れ

わが国の国際化の進展に伴い、今後教育面での国際交流のさらなる促進が期待されています。本研究科では諸外国からの留学生を積極的に受け入れ、教育研究面での国際社会への貢献を目指します。

4. 徹底的な個別的研究指導

博士後期課程では、専攻する研究分野の演習を通して主・副指導教員による徹底した個別的研究指導を行います。

本研究科が授与する博士学位の種類は、博士論文の内容により、「博士（国際学）」又は「博士（学術）」のいずれかになります。

修業年限

博士後期課程の修業年限は3年間とします。ただし、優れた研究業績をあげた者については、1年以上の在学をもって修了を認めることがあります。

教育研究内容

現代国際社会の多彩な面を正確に把握し、多

全研究科共通科目群 21世紀の人間と社会

Graduate School of International Studies | Graduate School of Information Sciences | Graduate School of Art

学際的な視野から、明日の地球社会を見つめる

次代を担う若者たちが、専攻する専門分野の既存の枠組みを越えて、常に、新鮮な視点、多様な問題意識、柔軟な判断力を持ち、人間と自然への畏敬の念を培いつつ、21世紀に役立つ調和の取れた学問研究を行える教育・研究体制を整えることが必要です。

このために、全研究科共通の選択必修科目群「21世紀の人間と社会」を編成。この科目群に選定する10科目の講義内容は、人文科学、社

会科学、自然科学、芸術学など、既存の縦割りによる学問領域を越えて、より広範な学際的領域で編成されています。学生たちは、これらの科目群を通してさまざまな分野の知的情報のエッセンスに触れることにより、学問研究に対するバランス思考と柔軟な批判精神を養い、修得する専門知識をリチャップルする機会が得ら

れます。さらに、既成の学問への固定的なイメージを脱し、旺盛な知的好奇心と学際的関心を広げて、21世紀を生きるための新たな知のパラダイム構築へ向かわせる進取の気概と創造的精神の萌芽が期待されます。

平和研究

国際平和の構築の現実的方法として、国連による集団安全保障の方式がこれまで最善のものと考えられてきました。国連による現代の平和構築の企てや国連改革の問題点、および国際刑事裁判所についても検討します。

非常勤講師 藤田 久一

日本論

日本の神話・伝説・文学を世界のそれと比較し、日本的霊性について考えます。

教授 篠田 知和基

情報と倫理

情報を文化とみなし、情報技術開発を1つの文化的な活動として捉えます。人間のすべての活動の背景には倫理的要素があります。日常漫然と見過ごしがちな、情報技術に関連したもろもろの社会事象を身辺から拾い上げ、文化的な視点からその質を評価します。また、本講義では体系化された情報倫理の口述に代え、もろもろの社会事象が内包する倫理的側面についての発見的な意見交流を受講生に体験していただきます。

非常勤講師 市川 忠男

地球社会論

地球社会論はすでにできあがった学問ではありません。地球的規模で起こっている諸問題を論じ、その解決方法を見いだす創造的な講義にしたい。

非常勤講師 中島 潤

開設授業科目

科学史

歴史的展望において宇宙観と人間観について論じ、西欧の学問の歴史全体の見直しと、その中で科学の位置づけを図るとともに、現代科学のもつ制度上、内容上の特質を論じます。

非常勤講師 村上 陽一郎

人間論 A (人文・社会科学)

人間らしさに関する歴史的自覚の過程を次の課題に即して論じます。日本的芸術並びに芸術観の形成を社会的制度や宗教・倫理等との絡みを通して議論します。

非常勤講師 上寺 常和

人間論 B (自然科学)

人間社会と調和する科学文明社会を求め、合理主義的な科学的知識ではなく、人間を尺度として計ることのできる世界の実現について、自然科学、医学の分野から論じます。

未定

情報と社会

情報システム利用は、商流（生産・販売）から始まり、物流（輸送）、金流（決済）へと変化しました。今後は知流（開発・調査・教育）の大変化が始まるでしょう。利用の変化と、人類が初めて手にした超低価格の通信手段は情報独占により維持されていた権力者による支配を崩壊させ、すべての人が情報を共有することを可能にし、真の民主主義社会が成立する条件を整えました。このことは経済を変え、政治や法を変え、価値観まで変化させます。この社会変動を展望します。

非常勤講師 真田 英彦

道具論

道具がどのような存在であるかを論じます。道具存在論、道具がひらく文明と文化の歴史、過去と現在、未来論、形態と機能、美意識の国際比較、美術、工芸とインダストリアルデザインとの違いなど、道具を使う立場、つくる立場、考える立場、商う立場にとっての道具のありようの見方を論じます。

非常勤講師 栄久庵 憲司

都市論

グローバル化やマルチメディア技術の普及とともに都市はますます不可視となってきました。機械化、ネットワーク化する都市は、他方で生命体としての人間のエコロジー回帰を促しています。そもそも都市とは何だったのか、歴史の原点に遡り、かつ未来都市を構想しつつ、また視野を広く地球規模に拡げて、20世紀のひとつの象徴的な都市広島においてこそ論じなければならない21世紀における人間と都市について論じます。

(オムニバス形式) 非常勤講師 杉本 俊多
非常勤講師 岡河 貢
非常勤講師 千代章一郎

国際学専攻 国際社会研究科目群

International Studies

講座	授業科目の概要	担当教員	担当教員の主な分野	
政治・社会研究	I (民族国家論) A nation-state をめぐるさまざまな議論のあり方を、多様な視点に着目して考察します。 B nation-state を中心とした歴史認識のあり方を、多様な視点から問いなおします。	助教授 大庭千恵子	国際関係史	
	II (国際協力論) A 「なぜ国家という枠を超えた協力が行われるのか」という問題について考えていきます。 B 国際協力に携わるアクターについて、特に市民レベルの協力について考えていきます。	助教授 吉田 晴彦	国際協力論	
	III (マクロ社会理論) A 私達の日常生活をグローバルな視点から考えるマクロ社会理論を勉強します。 B マクロ社会理論を使って自らの関心に沿ったテーマを考えます。	助教授 湯浅 正恵	社会学	
	IV (国際法) A 人権分野の国際合意の国内適用について、文献を講読し、検討します。 B 日本の主権機能の変質と、労働力再生産過程(ケア)における公益確保について、考察します。	助教授 太田 育子	国際法	
	V (地域統合論) A 現代の東南アジアにおける地域統合の起源と発展、特に ASEAN について考察します。 B ASEAN の拡大とグローバル化時代に伴う役割の変化、そして新組織設立について考察します。	教授 Omar Farouk	比較政治論(東南アジア論)	
	VI (国際機構論)	平成 18 年度は開講しません。		
	VII (比較政治論) A 東アジアの政治体制、開発、ナショナリズムを比較考察します。 B 東アジアの国家間、社会間の協調と対立について考えます。	助教授 金 栄鎬	政治学 現代韓国朝鮮研究	
経済政策研究	I (経済政策論) A 長期経済成長率の決定に関するモデルを理解するための基礎理論を学びます。 B 経済政策が経済・社会に及ぼす影響を長期的な視点から分析します。	助教授 高橋 広雅	経済政策論 経済成長論	
	II (国際開発論) A 発展途上国における自然資源の利用・管理の事例を学び、地域の持続的発展の条件を考えます。 B 地域資源の利用・管理の在り方について、コモンズの理論を応用しながら考えます。	教授 中島 正博	国際開発論 環境・資源管理論	
	III (経済発展論) A 制度・組織の形成・変化を研究するための基礎理論(ゲーム理論・インセンティブ理論)を学ぶ。 B 理論の応用としてのゲーム理論・インセンティブ理論を学ぶ。	☆教授 坂井 秀吉	経済発展論 開発経済	
	IV (都市経済論) A 大都市の交通問題をとりあげ、都市空間と交通の関係をミクロ経済の立場から解説します。 B 大都市の都市政策と交通計画の関係をとりあげ、公共部門のマネジメント問題を概説します。	教授 寺田 英子	交通経済学 地方財政学	



講座	授業科目の概要	担当教員	担当教員の主な分野
経営政策研究	I (国際経営論) A 国際経営問題全般に関する理論的・実証的考察を行います。 B 企業が国際的競争力を向上させるための企業・国特有の優位性に関する分析を試みます。	助教授 金 泰旭	国際経営論 経営戦略論 経営組織論 ベンチャー企業論
	II (企業文化論) A 従来の経営諸理論と文化概念の交差領域の研究系譜を辿りつつ、新たな展開を模索します。 B 企業行動や経営の文化的認識の次元を実証的に分析、考察しつつ新知見を探ります。	非常勤講師 岩城富士大	国際経営論
	III (多国籍企業論) A 多国籍企業をとりまく自然的、人為的な環境を戦略的な視点で検討します。 B 自然的・人為的な環境を十分に認識した上で、多国籍企業のとるべき対応を検討します。	教授 大東和武司	多国籍企業論 国際貿易論
	IV (国際金融論) A 国際金融の基本理論、制度的枠組みの理解を目的とします。 B 実際の国際金融問題(累積債務問題、EU通貨統合、アジア通貨危機など)を検討します。	教授 二村 英夫	国際金融論
	V (経営管理論) A 企業の経営戦略について理論的、実証的に研究します。 B 企業の組織について理論的、実証的に研究します。	非常勤講師 米田 邦彦	経営管理論
	VI (国際会計論) A 会計制度の国別相違の原因と現状、さらに会計基準の国際的統合の意義を探究します。 B 金融商品、退職給付、減損など、現在生起している会計の諸問題を研究します。	助教授 潮崎 智美	国際会計論 会計学
社会文化研究	I (音楽文化論) A 音楽人類学の基礎的理論を修得し、諸民族の音楽文化に関する今日的な諸問題を検討します。 B 文化動態論の視点から観光開発などをテーマに伝統の変容の具体的な事例を考察します。	教授 塚田 健一	音楽人類学 文化人類学
	II (現代思想) 平成18年度は開講しません。		
	III (教育経営学) A 教育目標を効果的に達成するための学校と地域の連携の在り方について考えていきます。 B 効果的な教育を展開するための学校の組織と運営、教師の資質能力等について考えていきます。	教授 赤星 晋作	教育経営学
	IV (情報メディア論) A 情報社会を理解するためにメディアと人間、社会、政治に関する理論を学びます。 B メディア・情報通信が現実の社会でどのような影響を及ぼしているかを考察します。	助教授 井上 泰浩	マスメディア 国際コミュニケーション論
	V (比較教育学) A 比較教育学の基礎理論と方法論を学びます。 B 多様な教育モデルを分析し、教育制度を読み解きます。	助教授 大野亜由未	比較教育学
	VI (異文化間臨床心理学) A 異文化臨床心理学に関する理論、および治療技法について事例を通して学びます。 B パーソナリティ特徴、神経症症状などと文化との関連について臨床心理学の視点から検討します。	助教授 吉 沅洪	異文化間心理学 臨床心理学
	VII (健康心理学) A 健康行動を変容させるための理論について考えていきます。 B 理論を適用した身体活動増進のプログラムを実施し、その有効性について調査します。	助教授 山口 光明	健康心理学
言語文化研究	I (社会言語学) A 英語及び日本語話者の、特定の社会的文脈での言語使用について概説します。 B サブカルチャー・グループに属する人々が使用する英語と日本語の多様性に関し概説します。	教授 Carol Rinnert	社会言語学
	II (言語教育論) A 外国語の教授、学習に働く諸原理を、文献の読解を通じて考察します。 B 外国語の教授、学習に働く諸原理を、調査、実験を通じて考察します。	教授 青木 信之	英語教育学
	III (応用言語論) A 言語研究が異文化理解、政策、教育などにどのように応用されているかを考察します。 B 国際社会に求められる言語のあり方について理論面、実証面から考察します。	教授 岩井 千秋	応用言語学
	IV (翻訳論) A 英語での翻訳の基盤である英文和訳を理論的に考察し、その基本的特性を探ります。 B 明治期から現在までの英語教材の訳文を分析し、翻訳技法の多様性と可能性を考察します。	教授 横山 知幸	翻訳 言語学習
	V (比較言語論) A 日本語と中国語の語彙、文法に焦点を充てて、両者の異同を考えます。 B 日本語における漢語の特質、意味用法などを中心に共時的に考察します。	教授 樂 竹民	日本語学(日本語史)
	VI (通訳論) A 通訳の理論モデルを概観し、文献研究及び事例研究を通じて実際の通訳との接点を探ります。 B 「訳す」という行為を異文化コミュニケーションとして捉え、多様な事例を通じて通訳の社会的文化的な意義を探ります。	助教授 渡辺 智恵	英語教育学

担当教員については、平成18年10月現在のものです。☆の教員は、平成18年度末で退任予定です。

国際学専攻 地域研究科目群

International Studies

講座	授業科目の概要	担当教員	担当教員の主な分野
アジア研究	I (東南アジア研究) A 東南アジア諸国が抱える政治的な課題を、開発政治体制の分析をとおして考察します。 B 「開発の時代」以後の東南アジア諸国の政治体制について考察します。	助教授 板谷 大世	東南アジア研究
	II (経済) A 東アジア（韓国、台湾）の経済の発展経路の違いを政治・経済・文化の視点から考察します。 B 東南アジア（タイ、フィリピン）の経済の発展経路の違いを政治・経済・文化の視点から考察します。	☆教授 坂井 秀吉	アジア経済
	III (思想) 平成 18 年度は開講しません。		
	IV (文化) A 中国の農村を事例として、口承文芸など民俗文化の今日的課題を検討します。 B 中国現代伝説の中の神話的要素をとりあげ、伝統的コスモロジーとその変容を考察します。	教授 加藤 千代	中国民俗学 口承文芸研究
アフリカ・中東研究	I (音文化) A アフリカの「音文化」（音楽を含む）の基本的諸問題を研究史に沿って概観します。 B 独立後のアフリカの文化政策と音楽との関わりを具体的事例に基づき、比較検討します。	教授 塚田 健一	音楽人類学 文化人類学
	II (社会) A 中東世界の基本的な枠組みを、「民族」、「宗教」などに焦点を当てて考察する。 B フィールドワークの成果を通して、中東社会の実像を明らかにする。	教授 宇野 昌樹	アラブ研究 文化人類学
	III (文化) A 東アフリカ諸社会に広くみられる社会組織である年齢体系の理論と民族誌の検討を行う。 B 北東アフリカの牧畜民社会の民族誌の検討を行い、今後の牧畜民研究の可能性を探る。	助教授 田川 玄	エチオピア研究 文化人類学



講座	授業科目の概要	担当教員	担当教員の主な分野	
ヨーロッパ研究	I (政治)	平成 18 年度は開講しません。		
	II (歴史)	平成 18 年度は開講しません。		
	III (民俗文化)	A ヨーロッパ文化・社会の特質を、主としてフランス口承伝承を中心にして研究します。 B フランス民族学を、口承文藝と祭暦をもとにして研究します。	教授 篠田知和基	比較文化学 比較神話学
	IV (イギリス文化)	A イギリス文学に描かれる、近・現代の時代相と人びとの生活を、絵画の視点から考えます。 B イギリス文学に読み取れる、過去につながる人びとの気持ちを、心理の視点から考察します。	助教授 土井 悠子	イギリス文学 文化研究
	V (アイルランド文化)	A 近・現代のアイルランド文学を通じて、アイルランドの歴史と社会への深い洞察を試みます。 B 文学として再構築されたアイルランド古来の民話、神話の現代的意義を探ります。	助教授 池田 寛子	アイルランド文学 文化研究
	VI (フランス文化)	A 文学でたどるフランスの現代文化を研究します。 B 様々な側面から文学でたどるフランスの現代文化を研究します。	教授 Christian Le Dimna	フランス文学 文化研究
	VII (ロシア社会・文化)	A 視覚メディアを通してロシアの歴史、文化を紹介すると同時に、社会、文化を理解するために視覚メディアをどのように役立てるかを学びます。 B ロシアの現代社会、文化の理解を目指して、映画、ポスター、広告、絵画などの視覚メディアを用い、考察します。	教授 Yulia Mikhailova	日露関係史
アメリカ研究	I (政治)	A アメリカ政治をめぐる諸問題に関して、制度面と歴史面からアプローチします。 B アメリカ外交をめぐる諸問題に関して、理論面と歴史面からアプローチします。	教授 上村 直樹	国際政治 アメリカ政治外交史
	II (社会)	平成 18 年度は開講しません。		
	III (歴史)	A 南北戦争・再建期以降から第一次世界大戦期までに焦点を充て、アメリカ史を概観します。 B 1920 年代末から第 2 次世界大戦後の冷戦期までに焦点を充て、アメリカ史を概観します。	非常勤講師 岡本 勝	アメリカ社会史
	IV (文化)	A アメリカ文化（特にアメリカ文学）を、人種的、宗教的、歴史的観点から考察します。 B 多くの文献を読破した後、学術論文が書けるまでテーマを掘り下げます。	教授 山本 雅	アメリカ文学 文化研究
	V (現代政治)	A 国際政治の理論を使ってアメリカの覇権について検証します。 B 冷戦史を見直しながらアメリカ外交の問題について考えます。	助教授 鈴木 健人	国際安全保障論 米国外交史
日本研究	I (政治)	A サンフランシスコ講和以降の日本政治外交について、最新の研究と 1 次史料を用いて考察します。 B 冷戦及び「5 5 年体制」崩壊後の日本の政治、外交・安全保障政策の展開について考察します。	助教授 池田慎太郎	日本政治外交史
	II (経済)	A 日本経済の発展過程を制度的変化、技術革新、政策等の様々な側面から全体的に検討します。 B 日本経済の発展過程における具体的な問題を取りあげて検討します。	教授 富永 憲生	日本経済発展史
	III (社会)	A 「ジェンダー研究」の様々な理論を、日本社会への応用を目指して講読・論議します。 B 近現代日本のジェンダー問題を、ジェンダー理論に照らして考察します。	教授 Ulrike Wöhr	日本現代の社会 思想史
	IV (文化)	A 漱石の小説を講読します。長編小説や物語のしくみについて考察します。 B 水村美苗の「本格小説」をテキストとして、小説の「語り」について考察します。「語り」という視点から日本の古典文学にも触れます。	教授 佐藤 深雪	日本文学 文化研究

担当教員については、平成 18 年 10 月現在のものです。☆の教員は平成 18 年度末で退任予定です。

国際学専攻 国際社会研究科目分野

International Studies

授業科目名	授業科目の概要	担当教員	担当教員の主な分野
国際法	イラク攻撃以降の国際法状況をふまえて、受講生の関心に沿った文献を精読し、研究テーマに関する知識の増大・問題意識の深化・批判的思考力の強化を図ります。	助教授 太田 育子	国際法
マクロ社会理論	多元性・不確実性・偶発性を増す現代社会において、政治・経済・文化の諸領域を分割し節合する秩序形成メカニズムを理論とフィールドワーク双方から考えます。	助教授 湯浅 正恵	社会学
地域統合論	グローバル化時代の地域間協力と地域統合の現象と意義を、EU、ASEAN、及び他の地域統合モデルを分析しながら考察し、グローバル化が地域統合に及ぶ影響を論議します。	教授 Omar Farouk	比較政治論
国際開発論	発展途上国における自然資源の利用・管理の事例を学び、持続的発展の条件である地域資源の利用・管理の在り方について、コモンズの理論を応用しながら考察する。	教授 中島 正博	国際開発 環境・資源管理論
経済発展論	制度・組織の成り立ちにつき、前期課程の基礎理論を踏まえ、産業組織論・契約理論につき考究する。	☆教授 坂井 秀吉	経済発展論 開発経済
都市経済論	地方自治体の行政のサービスに適用されつつある、パブリック・プライベート・パートナーシップ (PPP) を概観し、公共部門の活動に民間資本を導入することの問題点を議論します。	教授 寺田 英子	交通経済学 地方財政学
多国籍企業論	多国籍企業の形成過程、企業環境に対する対外戦略、企業内部に対する対内戦略（マネージメント）など、基礎知識から応用問題にいたるまで広く情報を収集して、論文完成に近づけます。	教授 大東和武司	多国籍企業論 国際貿易論
国際金融論	国際金融の現在抱えている諸問題や理論的な考察及び実証分析の方法など幅広い観点から受講者の研究テーマを検討していきます。	教授 二村 英夫	国際金融論
マスメディア論	メディアによる人間の心と行動、そして社会への影響、また、国際政治での役割まで、幅広く体系的に理解しながら、自分のメディア研究の専門領域を確立させていきます。	助教授 井上 泰浩	マスメディア 国際コミュニケーション
教育経営学	教育経営を、教育目標を効率的に達成するために教育諸資源を組織化・計画化していく営みとしてとらえ、問題意識に基づいて研究対象及び研究方法を明らかにしていきます。	教授 赤星 晋作	教育経営学
社会言語論	社会における言語の多様化について考察し、特に英語と日本語において差別、親密度、相対的地位などの社会的背景が言語使用に与える影響に焦点を当てて研究します。	教授 Carol Rinnert	社会言語論
言語教育論	外国語の教授及び学習に働く諸原理について、文献研究、調査、実験を通じて理解を深め、研究者としての基礎を作るとともに学位論文の完成を目指します。	教授 青木 信之	英語教育学
応用言語論	国際社会のグローバル化に伴い、言語研究が異文化理解、対策、教育などにどのように応用されているか探求し、現代社会に求められる言語のあり方を理論面、実証面から研究します。	教授 岩井 千秋	応用言語学
言語比較論	日中両国語の比較対照を通じて、日本語における漢語の意味史を中心に、その意味変化の類型性、法則性、更に意味変化を惹起する要因を合わせて記述、考究します。	教授 樂 竹民	日本語学（日本語史）
翻訳論	翻訳に関わる諸理論、翻訳の歴史の変遷、起点言語や目標言語の分析に必要な関連領域、分析ツールなどについて学び、自分なりの翻訳理論を考えます。	教授 横山 知幸	翻訳論

国際社会研究演習

国際学専攻 地域研究科目分野

International Studies

授業科目名	授業科目の概要	担当教員	担当教員の主な分野
東南アジア政治	現代の東南アジアにおける政治的原動力について考察し、特に東南アジアにおける国家建設のテーマ、地域間協力、民主主義の発展について研究します。	教授 Omar Farouk	比較政治論
東南アジア研究	東南アジア諸国における国家建設と国民統合について考察します。これらの国々では、国家と国民がどのように想定されてきたのか、また、いかにしてそれらを実現し、結び付けようとしているのかを中心に考察します。	助教授 板谷 大世	開発政治論 東南アジアの地域研究
アジア文化	中国の民俗文化に関して、その研究史をたどり、膨大な古文獻資料の扱い方をふまえて、フィールド調査による動態研究の方法、課題を探索します。	教授 加藤 千代	中国民俗学 口承文芸研究
アフリカ音文化	アフリカ音楽研究を音楽人類学の研究史の中に位置づけて自らの研究課題に必要な視点と方法を検討し、またその今日的な意義を明確にした上で、学位論文の指導を行います。	教授 塚田 健一	音楽人類学 文化人類学
中東社会	中東地域における国家の形成と国民統合の問題を考察しながら、当該地域における対立と共存のメカニズムに関して議論を深めたい。	教授 宇野 昌樹	アラブ研究 文化人類学
東ヨーロッパ研究	西ヨーロッパ（ひいてはEU）とロシア（ひいてはユーラシア大陸）の間に位置する東ヨーロッパをめぐる国際関係史をふまえた博士論文執筆を指導します。	助教授 大庭千恵子	国際関係史 東欧地域研究
ヨーロッパ文化	フランスの民衆文化を地誌、伝説、昔話、魔術、民間医療などから掘り起こして文学とのかかわりを考えながら研究します。海や浜辺の神話、思想も取り上げます。	教授 篠田知和基	比較文化学 比較神話学
アメリカ政治	アメリカ外交に関して、主要著作の読解と討議を通じて研究上の問題点を検討し、将来大学レベルの教育に携わったり、自立した研究活動を行ったりするための基礎を身につけます。	教授 上村 直樹	国際政治学 アメリカ政治外交史
アメリカ文化	アメリカ文化における重要なテーマ（人種、宗教、文学等）に関して、必須の文献の読破を行い、次にそのテーマに関して、資料の収集を行ったのち、まとまった学位論文を書く訓練をする。	教授 山本 雅	アメリカ文学 文化研究
日本社会	歴史とジェンダー、国家とジェンダー、ジェンダーとエスニシティ、エスニシティと国民国家等に関する様々な理論を理解し、それに照らして近・現代日本の再考を行います。	教授 Ulrike Wöhr	日本近現代の社会 思想史
日本経済	受講生の研究内容に合わせたテーマをとりあげ、それを経済学的視点と経済史的視点の両面から検討し、その問題点を明らかにし、受講生の博士論文の作成に役立てたいと考えます。	教授 富永 憲生	日本経済発展史
日本思想	ポストモダニズムの多様な理論を用い、明治・大正思想を把握し、特にナショナル・アイデンティティの形成、日本伝統の創造、「他者」観などの問題についての論文指導を行います。	教授 Yulia Mikhailova	日露比較文化研究
日本文化	古典から現代のエンターテインメントまでを物語という面から研究します。あわせて批評理論を学びます。	教授 佐藤 深雪	日本文学 文化研究

担当教員については、平成 18 年 10 月現在のものです。☆の教員は平成 18 年度末で退任予定です。



広島市立大学	バス 12分 (広島高速4号線)	横川駅	バス 7分	広島バスセンター
	バス 13分 (広島高速4号線)			
	大塚駅	中筋駅	高速バス 38分	広島空港
	バス 2分	アストラムライン 20分	横川駅	JR山陽本線 5分
バス 12分		横川駅	JR山陽本線 5分	JR広島駅
バス 24分		新井口駅	JR山陽本線 10分	



広島市立大学大学院

国際学研究科 情報科学研究科 芸術学研究科

入試に関するお問い合わせ先

広島市立大学事務局入試担当

Phone 082・830・1503

nyushi@office.hiroshima-cu.ac.jp

編集発行 広島市立大学広報委員会

〒731-3194 広島市安佐南区大塚東三丁目4番1号

Phone 082・830・1500 (代) Fax. 082・830・1656

<http://www.hiroshima-cu.ac.jp/>

発行日 平成18年10月31日

デザイン 中村圭

印刷 株式会社中本本店

登録番号 広W0-2006-064



古紙/リサイクル配合率100%再生紙を使用しています